

## 石原孟准教授，山口敦助教，藤野陽三教授 土木学会論文賞を受賞

この度、東京大学橋梁研究室 石原孟准教授，山口敦助教，藤野陽三教授が平成 18 年度土木学会論文賞(総合題目)を受賞されました(<http://www.jsce.or.jp/prize/2006/h18.shtml#04>)。土木学会論文集に掲載された論文、「複雑地形における局所風況の数値予測と大型風洞実験による検証，No.731/I-63,pp.195-pp.211,2003.4」と、「力学統計的局所化による新しい風況予測手法の提案と実測による検証，A,Vol.62,No.1,pp.110-pp.125,2006.1」が評価され、本賞の受賞となりました。

受賞論文は、風観測を行うことなく数値流体力学に基づく手法によって局地的風況の予測を実現するシステムの開発に関するものです。全地球レベルの気象情報から微細な局所地形が支配的なレベルにスケールダウンするプロセスにおいて「力学統計的局所化手法」と呼ぶ新しい統計処理法を導入することにより、地形による流れの剥離や局所循環などを考慮した年間にわたる局所的な風向・風速情報を、従来法よりも少ない計算負荷で取得することができるシステムを実現しました。本風況予測手法は実在の風力発電サイトの風況評価に適用され、他の手法を上回る予測精度が得られました。

本研究で開発された風況予測手法は、従来の気象学的手法と風工学的手法の問題点を解決し、新しい発想で融合させることにより、欧米に比較して地形が急峻なわが国の局所的風況の予測精度を向上しました。風力発電だけでなく、強風災害や風環境に関わる幅広い活用が見込まれ、学術上および実用上の観点から非常に高い貢献があったと判断され、今回の受賞となりました。

平成 19 年 5 月 25 日、東京で開催された第 93 回通常総会において、受賞式が行われました(図1)。



図1 土木学会論文賞の表彰状とメダル